

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1072300211		
法人名	株式会社 和		
事業所名	グループホームやさしい家		
所在地	群馬県藤岡市鬼石180-3		
自己評価作成日	平成22年11月1日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigo-joho.pref.gunma.jp/
----------	-----------------------------------------------------------------------------------------

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	サービス評価センターはあとらんど		
所在地	群馬県前橋市大渡町1-10-7 群馬県公社総合ビル5階		
訪問調査日	平成22年11月19日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

昔ながらの家屋で利用者様が落ち着いて生活できる環境づくりに勤めている。また、地域との交流を大切に、隣保班に加入し、どこでも見られるごく一般的な普通のお付き合いを近所の方々とは行っている。地域での買い物や外食を行いながら、外に日常的に出掛け、徘徊者への見守りや通報等の協力もしてもらっている。町の行事にも積極的に参加し、伝統ある夏祭りにも参加させてもらっている。また、利用者様は日常生活の中で、出来るだけ紙おむつを使用しないよう力を入れている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

地域との交流を大切にした運営を心がけており、隣保班に加入し、近隣の人々とはごく普通のお付き合いをしている。日常的に近隣の散歩に出かけ、食材の買物や外食等は近くの商店街を利用している。地元の行事や夏祭りにも積極的に参加している。運営推進会議メンバーの意見等を取り入れ、防災訓練の際には消防団や地域の人々にも参加してもらったり、徘徊者への見守りや通報等についても協力を得ており、地域との協力体制を築いている。できるだけ紙オムツを使わずに、職員手作りの布パットを使用する等、細やかな排泄の自立支援を行っている。一人ひとりがその人らしく暮らせるように、様々な工夫や配慮をしながら、利用者本位の支援に取り組んでいる。職員の温かい見守りの中で、利用者と職員が共にゆったりと暮らしているホームである。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)		1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所理念を昨年、職員と半年かけて話し合い検討を重ね、作りあげ、実践に向けて努力している	職員全員で半年かけて理念の意義を話し合い、検討を重ねながら、地域密着型サービスのあり方を示した独自の理念を作り上げている。毎朝唱和し、会議・カンファレンス等で理念に触れ、職員間で確認し合いながら、日常業務の中で実践に繋げている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	隣保班に加入し、ごく一般的な普通のお付き合いを行っており、近所の店で買い物や外食をしたり、伝統ある夏祭りの参加や側溝掃除・地域の行事等にも積極的に参加すると同時に日常的に外出し交流を深めている	隣保班に加入し、葬儀手伝い・側溝掃除・地域行事に参加している。食材の買物や理髪店等は近所の商店街を利用している。地元の夏祭りには管理者が祭りの準備手伝い・祭囃子の練習に参加、利用者も山車を引いたり、見物をしている。日頃から積極的に地域住民との交流に努めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症サポーター講座を開催し認知症の理解を深めたり、情報誌を毎月発行し配布している。また、毎月「介護相談日」を設けている。定期的な運営推進会議にも地域の方が参加されている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に一回、定期的に行っており取り組み等を伝えている。そして意見を聞きながら種々の検討もおこないサービスの向上に努めている	会議は定期的に行われている。活動状況・事故・評価等の報告を行い、防火安全対策・急変時の対応・行方不明防止マニュアル作成・災害時対策(訓練実施)等について意見交換を行い、そこでの意見をサービスの向上に活かしている。8月の開催時に、市の担当者は欠席している。	運営推進会議は、事業所の考え方、運営や現場の実情等を伝える貴重な機会である。市の担当者が出席できない場合であっても、代替りの者が出席できる体制づくりに期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議に必ず出席されており、種々の取り組みを伝えたり、必要に応じて連絡を取りながら情報提供等もおこなっている	市の担当者には、日頃から種々の取り組みを伝えており、状況報告や申請代行等で市の窓口へ出向いたり、電話で相談等を行っている。「やさしい家だより」を支所へ持参している。市の担当者と連携を図りながら、サービス向上に取り組んでいる。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束をしないケアに取り組んでおり、職員全体で施錠などを話し合いながらケアに取り組んでいる。日中は玄関等は開けているものの、夕食時より施錠はおこなっている。日常的に見守りをしながら出入りは自由にしており、室内でも安全に気を配りながら自由に動けるようにしている	事業所の方針として、身体拘束をしないケアを目指し取り組んでいる。日中は玄関の鍵を開けている。職員全員で会議やミーティング等で話し合い、日常生活の中で玄関の施錠を含め、身体拘束の対象となる行為をしていないか細かく確認している。安全面に配慮しながら、利用者の自由な暮らしを支援している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止関連法についての具体的な勉強会はおこなっていないが、職員全員で話し合いを持ちながら防止に努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	職員への学ぶ機会は設けていないので、社内研修等にて行う必要がある。現在は、1名の方が成年後見を活用されている。また、支援はおこなっている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	管理者が十分な説明を行い、理解と納得を図っている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情相談窓口を設けている。また、定期的に介護相談員が来所し意見・要望を吸い上げてもらっている。その他、運営推進会議の場でもおこなっており反映させている	介護相談員の来訪時に、利用者の意見・要望等を吸い上げてもらっている。運営推進会議や家族等の来訪時には、意見や要望等を聞くように努めている。出された意見等は職員間で検討し、運営に反映させている。苦情相談窓口を設置している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回ミーティングを職員全体で持ち、議題に関しても職員より出してもらい話し合う機会を設けている	月1回、職員全員でミーティングを行っている。職員からの提案を議題に取り入れ、意見等を聞く機会を設けており、運営に反映させている。日頃から職員とのコミュニケーションを図るよう心掛けており、個人面談をすることもある。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	給与水準の見直し等はおこなっているものの各自が向上心を持って働ける環境かは疑問である。まだまだ条件等の整備は程遠いものであると考える		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	管理者がそれらを担っており、社内での勉強会を設けたり、社外研修へ積極的に出している		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者がそれらを担っており、GH事業所間での交換研修や見学研修を行い、横のつながりを持つようし、お互いの質の向上に努めている。また、管理者は群馬県地域密着型サービス連絡協議会の役員をし、活動している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用開始前には、家族・本人に会い、生活歴や基本情報等を詳細に収集し、安心して生活できるよう努めている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	利用開始前には上記の事を収集すると同時に、きちんと家族の要望や、話を聞き家族との関係作りに努めている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	その方に合った支援・対応をする為に、本人の言葉や態度等をきちんと見、必要な支援をおこなうようにしている。そしてそれらを職員全員が共有できるようにしている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	共に生活する”という理念のもとに喜びや悲しみを共有するよう努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族の方に協力してもらいながら家族と共に支援をおこなっている(一緒に外食に行ったり、受診してもらったり、行事に参加してもらったり…)		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族との外出や外泊、またホームの行事にも家族等に参加してもらい関係を築いている	家族や親類、知人等の訪問時やホームの行事の際には、寛いでもらえるよう配慮している。家族等と外食や外泊、馴染みの美容院等に出かけている。散歩に出かけて近所の馴染みの人と話している。電話の取次ぎを行っている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員が利用者様の間に入り、話題の提供をしたり、一緒に散歩や外出に出掛け共有する時間を作っている。また、夕食後には、食卓を囲みながら、ゆっくり話をする時間を設けている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居してもいつでも相談を受ける事を話しており関わりをもつ様に努力している		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	現状では本人から希望や意向を取る事が難しい方が多いが、そのような方には、日々の関わりの中から、その人の気持ちを理解しながら把握に努めたり、何気ない言葉や態度から汲み取り、職員全員で検討している	日々の関わりの中で、何気ない言葉や表情・態度等から、その真意を推し測ったり、それとなく確認するようにしながら、一人ひとりの思いや意向の把握に努めている。家族等からも情報を得て、職員間で共有しながら、本人本位に検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用前はもちろん、利用開始後も、本人や家族より聞き取りながら情報の収集に努めている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	その時の現状に合った、ケアをする為、日々把握に努めながら、カンファレンスにおいても話し合いを行いケアにつなげている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	職員はもちろん、家族や本人の意見や要望を聞きながら定期的カンファレンスを開催し、現状に即した計画を作成している	本人・家族等から意向等を聞き取り、カンファレンス等で職員全員で話し合い、意見や気づき等を反映させた介護計画を作成している。月に1回モニタリングを行い、およそ3ヶ月に1度の定期的な見直し、状態の変化に応じて随時見直しを行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別の記録を細かく記入し、問題があればカンファレンス等で話し合いを持ち、実践につなげたり、計画を見直している。また共有の情報が持てるように申し送りノートを活用している		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	訪問リハビリを利用している方もいる。、また、外出の支援に関しては、インフォーマルな地域の方々の支援もお願いしている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近くの多目的ホールへ散歩に日常的に出掛けたり、近所の庭先も散歩先として利用させてもらっている。また、資料館等、本人の生活が楽しいものになるよう個別の利用をしている(秋にはラグビー場も)		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医が遠方の場合は家族の協力のもと受診している。また、定期的に近くの協力病院でほとんどの方が受診しており、良い関係が作られている。医療連携も取っており、その訪問看護ステーションから週1回看護しながら来所し、適切な医療が受けら	本人・家族等の希望するかかりつけ医となっている。協力病院とも連携を図り、適切な医療が受けられるよう支援している。家族同行の受診・通院が不可能な場合は職員が代行し、受診結果を報告している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護記録がある。そして、週一回の訪問看護にて気になる事を相談したりしている。そして時には、医師とのパイプ役になっていただいたりしている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院した場合には、日常的に見舞いに行くように、定期的に主治医より経過等を聞く機会を設け退院へ情報交換をおこなっている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	支援には取り組んでおり、早い段階においても、意向を聞き取りながら、その時々において、話し合いも持つようにしている。また終末期における支援は現在のところまだ、実施されていない	「重度化対応・終末期ケア対応指針」を作成し、入居時に本人・家族等の同意を得ており、早い段階から本人・家族等の意向を聞き取っている。段階に応じて、その時々家族等と話し合いを持ち、医師・看護師・職員等が連携をとり、意向を確認しながら支援に取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	年2回、普通救命講習を受けている		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	4月と10月の年2回、地域の方や地元消防団の方々と消防署の指導のもと、避難・消火・通報訓練を実施している	消防署の協力を得て、年に2回総合防災訓練を実施している。消防分団や地域の人々に参加してもらっており、地域協力者の一覧表を作成している。備蓄用品の準備について話し合いを行っている。	利用者や職員等が確実な避難方法を身に付けられるように、実践訓練の増加に期待したい。災害に備えて、食料や飲料水、備品等の準備を進めてほしい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	日々、その人に合った言葉掛けや対応をおこなっているが、ややもすれば、対応できていない事もある。しかし、定期的に、会議等で、再認識する機会を設けている	その人に合わせた言葉かけや対応を行うよう努めている。管理者が指導したり、会議等で定期的に話し合い、職員間で意識の向上を図っている。個人情報取り扱いに関しては、秘密保持の徹底を図るよう努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	対応が一方向的にならないように、その人の理解度に合わせながら対応したり、意志の表示が難しい人には関わりの中から見つけ出したりして努力している。その人の表情や態度も重要		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのペースに合わせて対応するように心がけている。しかしながら、職員のペースにて対応してしまう事もある		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その人らしい身だしなみになるようにしている。ロングヘアで”みつあみ”している方もいる。近くの理髪店や、昔から行きつけの理髪店を利用したりしている方もいる		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	その人が出来る事をしてもらっており、包丁を使って皮をむいたり、包丁を研いだり、また、野菜の筋向きやお茶入れの手伝い、食器拭き・・・その人に合わせておこなってもらっている	利用者は野菜の下ごしらえ・包丁研ぎ・食器拭き等を職員と一緒にやっている。利用者とその日の希望を聞き、家庭的な料理を提供している。職員も同じテーブルを囲み、さりげなく介助しながら、その人のペースで楽しく食事ができるよう支援している。おやつ作りや外食等もやっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	その時、その人に合わせて、おかゆにしたたり、おむすびにしたたり、おかずを刻んだり、また、食べの悪いときには、食べられる物を提供したりしている。水分も、摂取しにくい人には、好みの飲み物等工夫して提供している		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	見守りをおこなう人、声がけだけのひと、介助が必要な人、その人に合わせて航空ケアをおこなっている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	必要な方には排泄チェック表を付け、排泄のパターンをつかみながら、その人に合わせた排泄の支援をおこない、なるべく失敗のないよう、そしてオムツの使用を極力しないような支援をおこなっている	排泄チェック表を使用し、排泄パターンを把握しながら、その人に合わせた誘導等を行い、トイレで排泄できるよう支援している。失禁時の対応についても羞恥心や不安を軽減するための配慮や工夫がなされている。なるべく紙オムツの使用をせずに、布パット(タオルで作成)等を使用している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事等の工夫をおこないながら、日常的に散歩等で動いてもらいながら、自然に排便出来るように支援をしている。また、朝食後にゆっくり便座に座り、便座の高い人にはいきみやすいように台を置いたりして排便しやすい環境づくりも工夫している		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	毎日入浴をおこなっており、その人に合わせて入浴の支援をしている。そして、楽しく入浴が出来るように、タイミングもその人に合わせておこなっている	毎日入浴できる体制をとっている。その人の希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、個々に沿った支援をしている。入浴拒否の場合には、言葉かけやタイミング等の工夫をしている。毎年5月、家族等と一緒に温泉への一泊旅行を実施している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	昼寝の必要な方には休んでもらい、その人に合ったベットや畳に布団を提供している。また、就寝時間を特に設けておらず、無理なく床についてもらっている		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の詳細については、各個人記録にはさんでおり、理解しやすいようにしてある。また、常に主治医に相談しながら、薬を処方してもらっており、血圧の薬を中止された方もいる。また、薬が変わったときには、必ず状態把握できるように記録に記入している		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	外食が好きな人には外食を、囲碁好きな人、スポーツ観戦、博物館等の見学…それぞれ個別の支援をしている		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ほとんど毎日散歩に出掛けており、その人に合わせて歩いてもらっている。一人で近場を散歩する方もいる。また、月1回の行事では、普段行かないようなところへ1日出掛けてきたりしている	希望や体調に応じて、ほとんど毎日散歩に出かけている。冬桜見物・リンゴ狩り・コスモス畑等へ出かけたり、個人の希望に沿って、墓参り・買物・外食・ラグビー観戦・書道展や美術展の見学・一時帰宅等に出かけており、戸外に出て気分転換が図れるよう、日常的な外出支援に努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	力量に応じて支援している。現在は、1人居るが、自分ひとりでは買いものが出来なくなった為に職員と一緒に支援している		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話をしたい方には、家族等に取り次いでいる。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	畳にコタツといった昔ながらの家屋の為、落ち着いて過ごせる。また、採光も明るすぎず、昔の田舎の家のようなものである。居間から台所が見え、食事作りなどが見える。普通の家のような空間である	昔ながらの木造家屋で、玄関入口にプランターを設置し、季節の花を植えている。居間にはテレビ等や複数の炬燵が設置され、利用者が寛げるスペースになっている。廊下の使いやすい場所にソファが置かれている。生活感を採り入れて、ゆったりと過ごせるような工夫をしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居間や台所、廊下とどこにでも行ける自由な空間となっており開放的である		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた馴染みの家具等を部屋に持ち込んでもらうようにしており、布団も使い慣れたものを使用	各居室には、桐の筆筒・整理筆筒・家族の写真・衣装かけ・寝具等、馴染みのあるものや思い出の品々が持ち込まれ、本人が落ち着いて過ごせるような工夫をしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	部屋への表示やトイレへの表示等その方に合わせた工夫をし、必要に応じて手すりを設置している。		